

# 井戸端だより

第48号

発行日：2004.12.15

発行：くらしの学習会

## もくじ

11月例会 ペルーお話会に参加して	.....	1
新東温市に思う ～第2回東温市議会定例会を傍聴して～	.....	3
「こんにちは！知事です」を傍聴して	.....	7
リサイクル法	.....	13
五十崎トンボ観察会に参加して	.....	15
蝶のくる庭	.....	17
男子も子育てを	.....	19
雑感	.....	20
次回例会のお知らせ	.....	23



9月例会	9月27日 林宅 井戸端会議
10月例会	10月25日 林宅 ・東温市長・市議選挙について ・「重信川にジャコウアゲハの保護地を」の 今後の活動の進め方についてetc
11月例会	11月 7日 ペルーお話会 11月29日 丹原：梅錦ガーデン・西山興隆寺

## ペルーお話会に参加して



ペルー・・・15世紀から16世紀にかけて栄えたインカ帝国。2000～3000mのアンデスの山中にあって豪華な文明を築いていた。その文明を今に残す遺跡に空中にポッカーリと浮かぶ都市マチュ=ピチュがある。天空の城ラピユタのモデルとなったその遺跡がなぜ建設されたのか定説はなく今だ議論中とのこと。また、南海岸には見事な幾何学模様が描かれたあの有名な地上絵で知られている古代のナスカ文化。空からでなければその形を認識できないほど巨大で精巧な地上絵がどんな目的で、どのようにして描かれたのであろうか・・・？ 私には神秘的な響きをもつ“ペルー”である。

そのペルーから愛媛大学に留学生として3年前に来られたレオニダス=ハンコさん（通称レオさん）が昨年12月に日本人女性と結婚された。スペイン語が堪能で私達と一緒にアラビア語を勉強していたS嬢である。ご結婚のささやかなお祝いを兼ね、ペルーのお話を是非聞かせていただきたいと林さん宅にお招きし食事を共にさせていただいた。ティティカカ湖やマチュ=ピチュで撮った写真やいろいろな民芸品を見せていただいたり、興味深いお話を聞かせていただいたりしながらペルーの雰囲気浸ったひとときだった。民芸品の一つにマラカスのような楽器があった。中に何が入っているのかとても柔らかで透明感のある響きに驚かされた。また雨の音を再現するという筒状の楽器もあり、日本の雨音とは違った乾いた感じを醸し出していた。

レオさんの生まれ故郷は、世界で最も標高の高い所に位置するティティカカ湖のすぐ西にあるフリアカという都市である。周囲を5000～6000m級の山に囲まれたその都市の標高は約3800m。富士山よりも高くその近くにはアマゾン川の源流地域がある。S嬢はレオさんと共に3月末から6月にかけて故郷を訪れ、レオさんのご実家で生活をともにされた。日本からアメリカ経由で首都リマまで丸一日。それから18時間かけてバスでフリアカに向かう。もちろんリマからフリアカまでの飛行機もあるが、平地に暮らしていたS嬢が約3000mの高度差をわずか2、3時間で順応するのは不可能なため、ゆっくりと18時間かけて行ったそうである。南半球なので冬に向かう時期、しかも高地とあって気温は氷点下10℃ほどまで下がることもあり、おまけに石造りの家には暖房設備が整っていないという。家の中でもダウンのコートをはおり毛糸の帽子が手放せないそうである。また酸素が薄く気圧が低いため彼女は高山病で体調をくずし、しばらく寝込んだ時期もあったそうだ。

レオさんはしみじみと“彼女には大変な思いをさせてしまった”と優しい眼差しをS嬢に向けていた。

高地は氷点下でも平地は熱帯地域。食べ物はマンゴやパパイヤなど熱帯産の果物が豊富でまたアンデス特産の果物もあるそうだ。豆類やとうもろこしも様々な種類のものであり、またティティカカ湖で捕れる魚、そして肉と食文化はバラエティーに富んでいるようだ。いつかレオさんにペルー料理を作っていただける機会があるかも・・・と期待している。

さてペルーでささやかな結婚の披露パーティーでは、ペルーの民族衣装に身を包み髪はつけ髪をして腰ほどまでの三つ編みをされたそうである。スカートはしっかりと生地のを5枚重ね着し、頭には帽子をかぶりその下から長い三つ編みが垂れていてさぞかわいいS嬢だったことでしょう。ペルーの毛糸の帽子をたくさん見せていただいたが、アルパカの毛糸での手編みの物で赤・青・緑など色とりどりの毛糸で編んだものや白・グレー・黒・茶色などアルパカの自然の毛の色を生かして編んだ物など、どれもとても暖かそうで素的だった。日本人男性がかぶると違和感を覚えてしまいそうな色鮮やかな帽子もレオさんがかぶるとよく似合うのが不思議。アルパカはアンデス山中に生息する動物だが、その大きさや格好からシカの仲間かと思いきや、なんとラクダ科に属するそうだ。

ペルーでは1月はお祭りの月。約1週間人々は仕事から離れ、仲間とともに飲み明かしお祭り気分一色になるのだそうだ。ペルーでは食べながら飲んだりはない。あらかじめ食べたあとはひたすら飲むらしく、それがペルーの飲み方らしい。寒い時期しか知らないS嬢にレオさんは“今度は暖かくてこんなお祭りの時期にまた行こう”と声を掛けていた。音楽は、アンデス地方では‘コンドルは飛んでいく’に代表されるフォルクローレ、都会ではスペイン系のラテン音楽など地域によって様々な種類の音楽があるそうだ。長さの違う竹のような物を合わせて作られている民族楽器で奏でられる‘コンドル・・・’は本当に心の奥深く浸み入ってくるに違いない。

政治に関する話では、現大統領はなんと国民の支持率6%でなお政権を維持できているのが不思議だと言われていた。権力を握るとどうしても私利私欲に走ってしまうのが権力者の常らしい。かつてのフジモリ大統領は問題を抱えながらもテロの根絶・道路の整備などその業績は今でも多くの国民に評価されており、帰還を望まれているとのことだった。

お二人のお話に耳を傾けながら、神秘的で未知なる国‘ペルー’が、少しだけ身近に感じられたのは、私だけではなかったことでしょう。日本語教育に深く関わっておられる林さんのおかげで、草の根的国際交流ができ感謝している。 (R.H)

# 新東温市を思う

## ～第2回東温市議会定例会を傍聴して～

12月14日、東温市役所へ足を運んだ。庁舎へ行くのは9月17日以来である。重信町から東温市へ変わったものの、まだ実感はなかった。そんななか、第2回東温市議会定例会を傍聴した。

理事者側の席には、高須賀新市長をはじめ29名が並ぶ。新議員の数(24名)より多い。定員28名の傍聴席もほぼ満席。東温市議会初の一般質問とあって13名が質問に立つ。1つの質問に集中する議員あり、12項目に亘る議員あり、質問内容も多岐に亘る。

東温市のまちづくりについて、新市長は「合併協議会で作成した新市建設計画に基づき7つの柱を設け政策を展開していく。そのためには、住民の参加が不可欠であり、女性の参画、各種委員会の公募制の導入など、また地域・学校が一体となって心の教育にも力を注ぎたい」とその一端を述べた。

災害(台風・地震)、防災、過疎、福祉対策などについて複数の議員の質問があり、関心の高さが窺えた。

最近高校生だけでなく、小・中学生についても学力低下が言われているなか、大西佳子議員は、朝食に関するアンケートをもとに食育の重要性を説き、①食教育の今後の取り組み、②地元産導入増加の具体策、③地場産給食は農政担当課の仕事(ではないか)、について質問をした。「現在、重信地域の学校給食では、米(こしひかり)、たまねぎ、豆腐、味噌、いちごなどは地元産が使われていて、今後川内地域でも川内産あきたこまちを使うようにする。その他の事項については、教育委員会・PTA・JA等関係機関と相談し意見を聞きながら推進していきたい」という。

また、佐藤壽兼議員は、学校給食センター建設について質問し、強く自校方式を主張した。確かに新市建設計画では、“公共的施設の総合整備”の中に“学校給食センター”が入っている。行政側は「自校方式にすると6～7箇所の設置が必要となり非効率的だから、センターを作るのがいい」という。しかしセンター建設には11億円余もかかるという。管理する側の考えが優先された結果が、特に教育の場でよくない方向に進んでいるように思えてならない。

渡部伸二議員は、自然観察会の実施と市民協働について質問した。①本市でも、五十崎に学んで自然 watching の実施を、②市内のボランティアグループ・市民

# 東温市 均衡発展へ姿勢問う

## 初議会13人が一般質問

東温市

東温市の十二月定例議会が十四日、同市発足後初の一般質問があり、全二十四十三人の議員が登壇、高須賀功市長の施策や旧重信・川内両町の均衡ある発展についてなど次々に質問した。  
東温市は九月の合併で議員の在任特例を適用せず、旧両町の合計定数三十六を、新市では二四とした。同日は町議経験者九人、未経験者も四人が質問した。

### 中山間地域振興 対策会議設立へ 過疎化で市長

東温市 (14日・定例) 玉乃井

進(無所属)桂浦善吾(同)永井雅敏(同)伊藤隆志(同)大西佳子(同)大西勉(同)渡部伸二(同)白戸寧(同)東一夫(同)佐藤寿兼(共産)佐伯強(同)丸山稔(公明)近藤千枝美(同)の十三氏が一般質問。

山間部で進む過疎化に關して高須賀功市長は「豊かな自然環境や遺跡、文化財を連携した新たな観光ルートの開発を行い、都市住民との交流を促進する」として、地元産品のブランド化などを表現するため多方面から検討・提言してもらう中山間地域振興対策会議の設立する意向を示した。

職員八人体制の川内支所(旧川内町役場)の機能拡充について、市長は「合併協議会で決定したこと。合併して日が浅く、住民も支所職員にも戸惑いがある。専門職を配置するかどうかは今後の検討課題」と述べた。  
財政難の中、公共下水道事業計画を見直すべきだとの質問に、菅野貴彦建設部長は「国民にとって必要不可欠な社会資本だが、今後は厳しい財政状況を踏まえ、認可区域の見直しなど関係機関と協議しながら事業を進める必要がある。人家が特に離れている場所である程度、合併処理浄化槽が普及している区域では、計画区域の見直しを検討する必要がある」と答弁した。

団体との協働の場を、と主張した。「自然観察会については、複数の課でそれぞれ環境読本の発行・キッズISO・ふるさと再発見等々を実施しているが、大人を対象とした企画も考えてみたい」、「ボランティアグループについては、全ては把握していないが、今後情報交換、意見を聞くことを検討する」との答弁だった。

生憎午前中2時間半の傍聴で8名の質問を聞くに留まったが、直接議会に向いてこれからの新しい東温市づくりに関わる生の声を聞き、「東温市」を少し実感できた。

選挙前に「たかすか功を囲む懇談会」で市長が主張していた、前例踏襲主義を脱却すること、行政のスリム化・効率化と徹底した職員の意識改革をする、このことを是非とも実現していただきたい。そうすれば、議会でひな壇に並ぶ理事者の数もへるのでは・・・。

また市長は、「まちづくりの主役はあくまでも市民。主体的、能動的なパワー・行動こそがまちづくりの最大のエネルギーだ」という。私たち住民もまず、市議会を傍聴し、東温市づくりの生の部分に立ち会うことが大変重要なことだと思う。そのために、議会の傍聴席、もっと広く、出入りしやすくないものかと。

(S・K)

## 愛媛新聞

2004年(平成16年)12月15日 水曜日

トップバッターの玉乃井進議員は「市長は(出馬に際し)七つの政策提言をしている。新時代にふさわしい住民主役の行政の確立とは、どのような施策を展開するのか」と公約実現に向けた姿勢を質問。市長は「女性の市政参画や各種委員会委員の公募、市長と住民の地域別懇談会を行い、NPOやボランティアなど市民パワーを活用する」と答弁、五つの委員会で

# 公平公正な 行政運営を

東温市初の臨時議会  
東温市発足後初めての臨時議会が二十四日、二十五日までの日程で開会した。議会関連の条例と規則を決めたほか、常任委員会の正副委員長を選んだ。

高須賀功市長は開会あいさつで「旧両町に不公平感や行政サービス低下がないよう公平公正な行政運営に取り組む。議会と理事者が一丸となって力強いスタートを切りたい」と述べた。

本会議や委員会などの運営方法を規定する市議会会議規則や議員定数条例など五議案を原案可決。各常任委員を選任し、議会運営委員長には片山益男氏(六七)を選んだ。各委員会の正副委員長は次の皆さん(正、副の順)。

総務 安井浩一、佐伯強▽産業建設 大西勉、永井雅敏▽厚生 森貞章

吾、伊藤隆志▽文教 桂浦善吾、竹村俊一▽議運 副委員長 藤田恒心

議長に佐伯氏  
副議長野中氏

東温市の臨時議会が二十四日あり、議長に前重信町議の佐伯正夫氏(六〇)無所属を、副議長に前川内町議の野中明氏(六〇)同を選んだ。

佐伯 正夫氏(六〇)いき  
新田高卒。会社代表。旧重信町議長など歴任。見奈良。

野中 明氏(六〇)のなか  
あきら)東温高卒。農業。旧川内町議会保健福祉委員長など歴任。北方。



# 東温市、初の予算案

旧町事業など  
暫定的な内容  
新規は来春へ

東温市は三日、十二月定例議会に提案する二〇〇四年度一般会計予算八千四百四十九万円など三十三議案を発表した。

同市発足に伴う初の予算編成で、暫定的な内容。政策的な新規事業などは二〇〇五年度当初予算編成から反映される。

他の会計予算案は、国民健康保険特別会計十八億二千九十五万円、老人保健特別会計二十一億七千六百五十九万円、介護保険特別会計十二億六千六百五十九万円、公共下水道特別会計十七億七千四百二十万円など。

台風21・23号による災害復旧事業費二億七千六百二十万円を計上。新規

10日から12日間

東温市議会

東温市議会は三日、議会運営委員会を開き、十二月定例議会の日程を十日から二十一日までの十二日間と決めた。詳細は次の通り。

10日 本会議(提案説明、質疑)▽14日 同(一

事業には、旧川内役場の本館を撤去し、別館を川内支所として改修する工事設計委託料百五十万円と、耐震化と全面改修のため拝志小学校体育館を大規模改造する工事設計委託料三百万円を盛り込んだ。

このほか旧町からの継続事業は▽公民館や病院と市役所を光ファイバーで結ぶ地域インターネット基盤施設整備工事請負費三億七百三十四万円▽重信中学校舎大規模改造工事請負費三億九千六百万円など。

般質問)▽15日 委員会(総務、産業建設)▽16日 同(文教、厚生)▽21日 本会議(委員長報告、表決)

東温市の初代議長に就任した

さいき まさお  
佐伯 正夫さん

東温市見奈良



を主眼とし、「委員会でも情報公開を進め、市民に見える議会にしたい」と意気込む。十八歳から四十三歳まで奥道後国際観光に勤務。自他共に認める猛烈社員で、取締役まで上り詰めた。「我慢の姿勢が大事と考えは美德。とにかく耐えて頑張り通す」のがス

東温市議会では「旧両町の対話と融和をモットーに、両地区が一緒に発展して行く」とる。議会運営は活性化

「趣味は、多くの人と会って話をする事かな」と笑う。妻佐智子さん金心と二人暮らしで、二人の息子はすでに独立。「四人の孫に会うのが一番の楽しみ」と目を細める。六十一歳。

対話と融和が大事

東温市の新生市議二十四人のうち十二票を獲得し、初代議長に就任した。「密室の話し合いで決めるのではなく、選挙しよう」と。(得票が圧倒的多数でなくとも)これでスムーズに行くと思うと話す。重信町議を四期十六年。川内との合併は議長として取り組んだ。



## 「こんにちは！知事です」を傍聴して

11月13日（土）東温市中央公民館に於いて開催された「こんにちは！知事です」を傍聴しての感想を述べてみたいと思います。

テーマは、助け合い・支え合いの『愛と心のネットワーク』づくり

《県民による助け合い・支え合いの活動の輪を広げよう》

県民一人ひとりが「困っているところに救いの手を差し伸べよう」という気持ちを持って、主体的で自立的な助け合い・支え合いの活動を行い、その活動の輪をどんどん広げます。そして、子供からお年寄りまで一人ひとりが生活に生きがいを感じ、安心して暮らすことができるようなふるさとの愛媛を実現するための活動を「愛と心のネットワーク」づくりと呼んでいます。

（当日資料より）

加戸知事から、20分程度の説明がありました。その内容としては（私のメモより）\*全てを政府に依存せず各地方で何とか出来ないのだろうか。

\*サービスを住民同士の心のつながりで出来ないだろうか。

\*市町村合併によりきめ細かなサービスが出来なくなって来た所を住民同士でささえられないだろうか。

\*税金と保険に頼らなくても住民同士で何とかならないだろうか。

\*ボランティアは、きっかけとチャンスさえあれば誰にでもでき、

その喜びを得れば、少子高齢化を受けて支えあえるのではないかな等…抜け落ちているところも多々あるとは思いますが、結局、国庫交付金が減り、税収もままならない昨今、県の財政も大変なので、政府や県にばかり頼らず住民同士で出来ることは助け合って下さいって事なのではないでしょうか。皆さんはどう思われますか？

ボランティアに関しての情報として、県はインターネット利用の「愛媛ボランティアネット」を刷新し、県と全市町村にボランティア相談窓口を開設 県民の助け合いを促進するとの新聞記事ありましたので、参考資料として添付しておきます。（この20分程度の話の中に加戸語録と言っては失礼かも知れませんが、「妻のミチコ」という言葉が何回出てきたことか。噂では聞いていましたが…）



この後、意見交換に入ったのですが、県民と県政について対話する場にしては、とてもお粗末な場だったように感じたのは、私だけだったのでしょうか。当然、事前に参加される人は決まっていたと思います。傍聴人からの意見は出せない約束なのですから。県に言うべき事も何点かはあったのですが、各自治体に言うべき事、ご近所で話すべき事、参加者全員に話してもらいたいという趣旨は理解できるのですが、知事では答え切れない内容も見越して県職員を同行させてたのに、もったいない感じがしました。三位一体改革による「義務教育費削減案」についてどう考えられているのか、子供達の将来・日本の未来を思うと、人事では済まされない重大なことが、ひたひたと忍び寄ってきている今、こう言った事も話し合われるものと思い参加したのですが、実り無き時間だった事をご報告致します。 A. M

## 森林保全「間伐進める」

東温市で知事と住民対話



県政について知事と住民が意見交換した「こんにちは、知事です」

加戸守行知事が県内各地で、県民と県政について直接対話する「こんにちは、知事です」が十三日、東温市の市中央公民館であった。東温市と伊予郡砥部町と広田村の農業や建設、商工関係者ら十八人が参加、約八十人が傍聴した。

また、東温市の建設業者が業界の厳しい現状を説明。知事は、県公共事業の今後の見通しについて「県単独事業は大幅減少しており、今後は人件費のカットをするほど県財政は厳しい。道路以外の公共事業の展望は明るくない」との考えを示した。

2004年  
11月14日

後援  
東温市

県はインターネット利用の「愛媛ボランティアネット」を、ボランティアをしたい側と必要とする側の仲介や情報交換の場に刷新し十九日、稼働させる。県と全市町村にボランティア相談窓口も同日開設、県民の助け合いを促進する。

新ネットでは、支援したい人・団体と、支援してほしい人・団体・施設があらかじめ登録しておくほか、随時申し込みもできる。支援したい人・団体は、地域や内容別にボ

## 全自治体に相談窓口

県、19日スタート

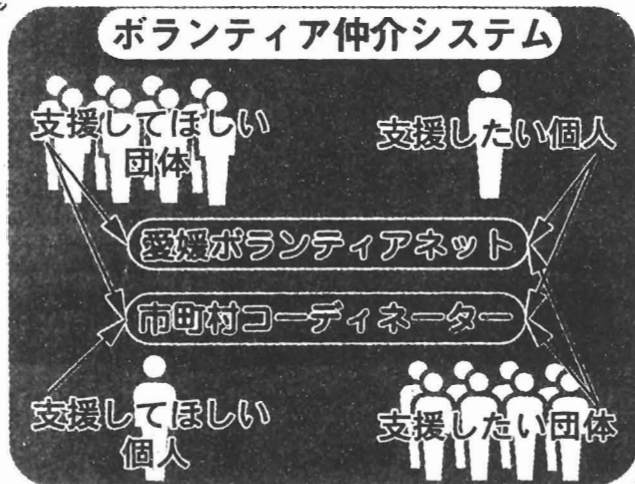
### サイトと合わせ便利に

や参加者の体験レポート、活動の助成情報など、県内のボランティア関連情報を集積。会員登録すれば、メールアドレスの配信や携帯電話での参加申し込みも可能。

県民活動推進課は「気軽に参加してほしい」と呼びかけている。十六日現在の登録者団体数は▽支援をした人五百四十一人、団体六百▽支援をしてほしい団体二十二、施設百七十四。同ネット

||アドレスhttp://nav.pref.ehime.jp

## 愛媛ボランティアネット刷新



ランテニア情報をパソコンで検索し、メールや電話で直接申し込みや問い合わせができる。

支援をしてほしい人は個人情報保護のため、各市町村の相談窓口を利用。担当者(コーディネーター)がその人のニーズを把握してネットを使い、ボランティアと結びつける。支援をしてほしい団体は、ネットと窓口の両方を利用できる。ネットには、カレンダー式のイベント情報

# 日本の高校生 学力深刻

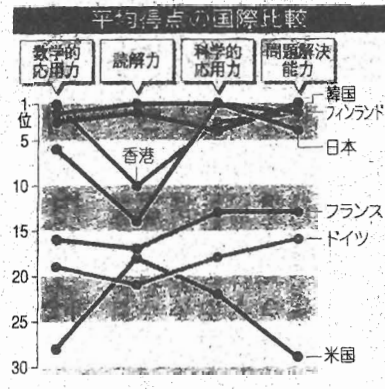
## 数学1位から6位

### OECD調査

経済協力開発機構(OECD、本部パリ)が昨年、四十九国・地域の十五歳を対象にした「生徒の学習到達度調査」(PISA)で、日本の高校一年生は、実施四分野のうち読解力が前回(二〇〇〇年調査)の八位から十四位に、数学的应用力も一位から六位に下がったことが七日、分かった。読解力の得点は参加国の中で前回からの低下幅が最も大きかった。

# 読解力14位 大幅低下

科学的応用力は前回と同じ二位で、今回初調査の問題解決能力は四位。文部科学省は「日本の学力は国際的に上位だが、最上位とは言えない」と世界トップレベルからの脱落を認めた。



科学的応用力は前回と同じ二位で、今回初調査の問題解決能力は四位。文部科学省は「日本の学力は国際的に上位だが、最上位とは言えない」と世界トップレベルからの脱落を認めた。

OECD学習到達度調査(PISA)義務教育修了段階の15歳の生徒が、実生活で直面する課題に知識や技能をどの程度活用できるかを評価するテスト。2000年に最初の調査をし、今回が2回目。00年は読解力

るかを評価する。平均が五百点となるようにして各国の成績を算出した。文章を読み取る読解力は前回と同じ二十八問を出題、日本は四百九十八点で前回から二十四点低下。OECD平均と同程度まで落ち込んだ。

### ゆとり路線 決別も

OECD調査で、日本は読解力や数学的应用力が低下した。理数系の学力が低く指摘される中で、全教科の基礎となる読解力の落ち込みという新たな懸念が浮上したことに、文部科学省は読解力を除く三分野は「二位グループ」と強調するが、現場の高校教師らには「学力は下がる一方」と深刻に受け止める声が多い。

OECD学習到達度調査(PISA)義務教育修了段階の15歳の生徒が、実生活で直面する課題に知識や技能をどの程度活用できるかを評価するテスト。2000年に最初の調査をし、今回が2回目。00年は読解力

数学的应用力、科学的応用力の3分野で実施し、今回は新たに問題解決能力が加わった。多岐選択式か記述式の問題で構成する。今回の読解力の全28問は、次回の06年調査でも使用するとして内容を公表していない。

無解答率が前回より5%以上高い問題も六問あり、受験者を六段階の得点ランクに分けると、最

低の「レベル1未満」の割合が日本は全体の7.4%で、OECD平均の6.7%を上回った。数学的应用力も五百三十四点で二十三点低下。科学的応用力は五百四十八点で前回比二点減。問題解決能力は五百四十七点だった。

中山成彬文科相は「世界一の学力」を目指し、子ども同士の競争強化を打ち出しており、今後、文科省も対策に躍起となるだろう。学力低下批判を受け、徐々に「脱ゆとり教育を進めてきたが、ゆとり路線と決別すると

もみえを施策が目立つ中で、一度立ち止まり問題点を探る好機だ。日本の子どもは記述式や難題の高い問題をあきらめる無解答率が高いとされる一方で、今回は問題解決能力が四位と上位だった。「応用が苦手のはずなのに意外」とみる向きもある。さまざまな角度からの検証が必要だろう。

OECDテストは目撃者の試験と趣が異なり、学んだことを実生活に生かす力を調べる。同省は思考力や判断力を育てる「新学力観」を掲げてきたが、それと合致する。今回の高校生は新学力観の下で学んだ世代で、データは定着度を検証する格好の素材になる。ゆとりから学力重視への揺り戻しなど、朝令暮改と

こまめに「行くかもしれない。OECDテストは目撃者の試験と趣が異なり、学んだことを実生活に生かす力を調べる。同省は思考力や判断力を育てる「新学力観」を掲げてきたが、それと合致する。今回の高校生は新学力観の下で学んだ世代で、データは定着度を検証する格好の素材になる。ゆとりから学力重視への揺り戻しなど、朝令暮改と

日本の高校一年生の学力は世界トップレベルから脱落。そんな衝撃的な事実が、昨年行われた経済協力開発機構(OECD)の「生徒の学習到達度調査」で明らかになった。

調査は単に知識や記憶力を問うのではなく、実生活でどう生かせるかを評価する。そうした力の差は将来、社会の活力の差となって表れる。それだけに示された結果は深刻だ。

特に心配なのは四分野のうち「読解力」で、日本は前回二〇〇〇年調査の八位から十四位に滑り落ちた。得点の低下幅は参加国の中で最大だった。

テキストを読み解き、自分で考える。読解力はまさに学習の

## ◆OECD調査

原点である。今回の結果は日本の若者の学力低下を象徴しているように思える。

子どもたちが放課後を図書館で過ごすことが多いという。一方、日本の状況は悲惨だ。

はさまざるだろう。それでも読書の習慣づけを急がなければ大変なことになる。強制して読書嫌いにしては元も子もないが、

力低下は今や現実になった。このままではいけない。文部科学省はすでに「脱ゆとり教育」へ軌道修正を始めた。

原因は何か。読解力でまたも一位となり、科学的応用力でもトップになったフィンランドと比べると違いが見えてくる。

前回調査のデータだが、図書館で月一回以上本を借りる生徒の割合は、日本は19%で平均の26%を下回る。「趣味の読書」を

嫌いな子どもも少なくないが、そうならない範囲で工夫をした。テレビやゲームも時間を限るなど節度をもちたい。

読書の量と質の低下は子どもたちの授業である。過剰な内容を性急に教えるのではなく、基礎基本を時間をかけて教える。それが遠回りのようでも一番学力向上につながるはずだ。

## 読解力の低下は何を意味する

が修士課程修了者▽クラスの人

均の31%を大幅に上回る。

たちの余裕の無さの表れでもあり、その意味からも「ゆとり教育」は見直すべきだろう。

受験のための勉強ではなく、社会に出て役に立つ勉強。学ぶに値することを学ぶ。そうしなければ子どもたちは学習に興味を持ち始め、理解も進むに違いない。

む」などの特徴が指摘されている。単純比較は難しいにせよ、なるほどと思わせる。

前回の調査時の読書傾向調査でも、日本の生徒は漫画や雑誌など短い文章を読む割合は最も高いのに、小説など長く複雑な文章を読む生徒の割合は最低とい

う結果が出ている。塾や習い事で忙しいなど理由

「逆にゆとりが無くなった」と教育の在り方を根本から見直すべきときだ。

注目すべきは読書だ。フィンランドは日本のコンビニのように各地に小さい図書館があり、

塾や習い事で忙しいなど理由

という不満は多い。心配された学

べきときだ。

## 社説

# 小中理数も学力低下

## IEA調査 基礎知識の問題

国際教育到達度評価学会(IEA、本部アムステルダム)が昨年実施し、十五日付で公表した国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)で、日本の中学二年の数学は前回(一九九九年調査)と同じ五位、理科は四位から六位に低下したことが分かった。小四の算数は前回(九五年)と同じ三位、理科は二位から三位に下がった。

平均点も前回と比較す 数・理科でダウンした。(OECD)の学力調査  
ると、中二理科の微増以 実生活への応用力を重 (PISA)に対し、T  
外は中二数学と小四の算 視した経済協力開発機構 IMSは基礎知識が対

象。高校一年生の読解力  
などの低下が明らかにな  
ったPISAに続き、小  
中学生の基礎学力低下も  
浮き彫りになった。

日本の中二は一日のテ  
レビ・ビデオの平均視聴  
時間が二・七時間と最長  
で、小四も米国の二・一

時間に次ぐ二・〇時間だ  
った。

小四(第四学年)の調  
査は二十五万回・地域の  
約十一万七千人が参加  
し、日本は国公私立百五  
十校の約四千五百人が受  
けた。中二(第八学年)

では四十六万回・地域の  
約二十二万五千人が参加  
し、日本からは百四十六  
校約四千九百人。

参加国の平均が五百点  
になるように算出し、日  
本の中二は数学が前回比  
九点減の五百七十点。理  
科は二点増の五百五十二  
点。小四は算数が二点減  
の五百六十五点、理科は

十点減の五百四十三点だ  
った。

前回と同じ問題の平均  
正答率は、中二は数学が  
70%から66%に4%、理  
科が63%から61%に2%  
それぞれダウン。小四算

### 過剰な反応やめて

竹内洋・京大教授(教  
育社会学)の話 学力低  
下の傾向がはつきりと出  
ているが、少子化で受験  
競争が緩和したことや  
「いい学校に入れば、い  
い会社に進める」という  
従来の常識が崩れて、全  
体的に子どもが勉強しな  
くなってきているのだろう。  
しかし、だからといって

数は77%で前回と同じ。  
理科は80%から79%にな  
った。

小四、中二の両科目も  
一位はシンガポールで、  
日本を三十二―三十五点  
引き離れた。

「子どもにもっと勉強さ  
せろ」とヒステリックに  
反応するのはやめてほし  
い。一九七〇年代に受験  
競争が過熱したときには  
全員が一様に勉強するこ  
とを強いられた。成績が  
下位の子は嫌々勉強をし  
たり「自分には将来がな  
い」と悲観したりしてい  
た。そんな状況に後戻り  
するのはどうかと思う。

## “リサイクル法”

ゴミ問題は、多くの地域がかかえる頭痛の種です。家電リサイクル法が制定されてから、私の住む地域では、大型ゴミ回収前に、テレビ・クーラー・冷蔵庫が捨てられる様になりました。ゴミ置き場に注意書きをしても、捨てられた家電に引き取り勧告を貼っても効果なしです。この法案が論議されていた頃、私達主婦の間では、“家電を買うときにリサイクル料を支払う様にしないと、ポイ捨てが増えるよね。”という会話がとびかっていた。しかし、政治の場では違う意見が多数を占めたのか、決定されたのは、不要になった家電を処理する時に、リサイクル料を支払うというものでした。私は政治に関わる人達の生活感覚を疑ったものでした。お陰で家電は山や川に捨てられ、地域のゴミ置き場にもこっそり捨てられる様になったのでした。私は一日でも早く家電リサイクル法が改定される事を望んでいます。

これに加えて、来年1月からは、自動車リサイクル法がスタートです。家電と違い購入時にリサイクル料を支払うことになっています。2年前から廃車時の“フロン処理費用”支払いは義務づけられていましたが、来年からはシュレッダーダストとエアバックの処理費用も購入者負担になるのです。シュレッダーダストとは、廃車からエンジン・タイヤ等主要部品を取り外し、車体をシュレッダーマシンで碎いて、鉄・非鉄金属を回収した後に残る樹脂・ゴム・ガラスなどのことです。自動車リサイクル法によって、放置車両が減り、自然環境を汚染するシュレッダーダストの有効利用が進むと期待されています。リサイクル料金は個々の車によって異なるので、各自動車メーカーは、リサイクル性の高い車の開発に力を入れているそうです。しかし、私は、家電でも車でも、リサイクル料金を購入者が負担するという事に疑問を持っています。リサイクルには、製品を作る側と使う側双方に負担する義務があると考えているからです。今後、家電品も車もリサイクル性の高いものに改良されていくでしょう。一年間隔で製造年毎のリサイクル処理費用の必要経費を一台ごとに換算して情報公開してもらい

たいものです。なぜなら、リサイクル料が購入者負担となっている今は、私達が支払っている料金は適正なものかどうかを知る権利は私達にあるからです。リサイクルの処理過程はパソコンを使ったり業者に問い合わせれば知ることができるのに、リサイクル料使途過程については知る手段がありません。これでは法案決定した側の情報公開責任が足りないと思いませんか？

以下は、自動車リサイクル法について、JAF 月刊誌にあった Q&A です。

Q：リサイクル料金はいつ払うの？料金は？

A：1月以降に新車を購入する場合、購入時に支払う。

すでに車を持っている人は、来年1月以降、最初の車検時に支払う。

車検が来る前に廃車する場合、引取業者に支払う。

いずれも引き換えに、リサイクル券を受け取り、廃車時まで保管する。

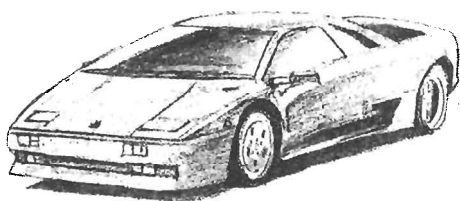
料金は、乗用車が1万～1万5千円くらい。

尚、古い車でエアバックがない車でも、シュレッダーダスト処理費はかかる。しかし、新しい車より料金は安くなるはずだ。主要な車種の場合、メーカーのホームページで調べられる。

Q：中古車として売る場合、リサイクル料金は戻ってくるの？

A：リサイクル料を支払っている車を中古車として売る場合、リサイクル券も次の所有者に渡す。その際、車売買代金に含めて次の所有者から受け取る。

(R・D)





## 五十崎トンボ観察会に参加して

なかなか実行できないジャコウアゲハの保護に、何か参考になるかと思って五十崎町のトンボ観察会に行ってきました。場所は五十崎町堂ヶ谷「トンボの里」。住宅地から山に向かうあたりの谷筋に、池と休耕田を利用して作られたビオトープです。

11月13日（土）午前10時～11時半まで、公民館の上岡さんの指導で、地元昆虫少年5人と一緒にトンボを追いかけました。長靴をはいて網をもった子ども達が草の中を走りまわる姿は、何かほっとするような、絵になる景色でした。残念ながら中年を超えた私は絵になりません。おばさん仲間がほしい。

講師は高知県の「トンボと自然を考える会」の杉村さんでした。杉村さんはトンボに魅せられて、トンボにはまりきって、もうトンボと一体化しているとしたか思えないような感じの方です。マツタク、歩く「トンボ図鑑」でした。

もう秋も終わりで大型のトンボは見えませんでした。やや小型のきれいなものが10種類ほどいました。子ども達は、普通種のトンボはもうほとんど知ってしまっているのか、捕まえてもしばらく観察すると逃がしていました。珍しい種や環境の指標になる種を見つけようとしていたようです。ちょっと気になるトンボを見つけると、上岡さんや杉村さんに見せていました。私はどれも知らないので、終始「センセ、これ何？」を繰り返していました。トンボの♂♀の違いや、種類による住みかの違い、若い個体の特徴など、なかなか面白い話を聞くことができました。毎年こんなふうにして、トンボ観察会や植物観察会、ネイチャーゲーム等を開くそうです。

運営は「トンボの会」。水利組合や公民館、学校、地域それぞれの関係者と、ボランティア活動をしている人達で結成された団体です。何よりも印象に残ったのは、町の教育委員会がリーダーとして積極的に参加していることと、目的が環境調査であるということでした。上岡さんは「自分達の生活環境を守る、つまり安全な水を守り安全な米を食べる為には、



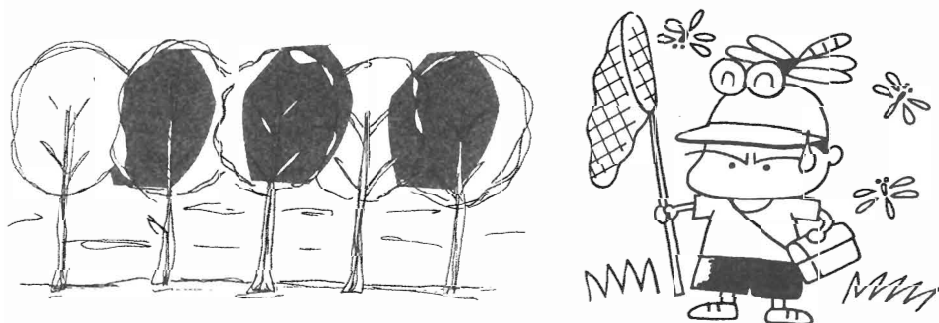
環境調査は当たり前でしょう」と言われました。トンボは幼虫時代を水中で過ごします。きれいな水でしか住めないトンボの数をかぞえることは、私達の飲む水の安全の度合いをかぞえることです。まさに『トンボは水の見張り番』でした。

でも、この当たり前の活動がなかなか実行されないのです。活動を続けてこられたコツを聞くと、「いろんな市民活動のグループがたくさんあると思いますが、ひとつにまかせないことです。ネットワークを作って、それぞれが個性を持ちつつ対等に多方面から情報交換しながら、活動を進めていくことです。この方法で茨城の霞ヶ浦で、やはり環境保護を目的としたNPO団体がすばらしい成果をあげています。私はまだまだですが、やりたいことはいっぱいあります。」と言われました。

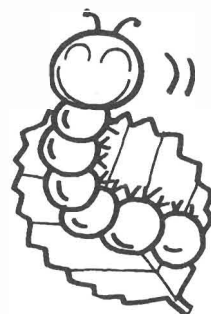
私も自分の住んでいるこの土地の昆虫や植物を、もっと知りたいと思っていますから、五十崎のしっかりした組織と運営が羨ましくなりました。

外に出てみれば、実際に行動している人に出会えます。行政の違いも分かります。何も出来ないとおきらめていましたが、杉村さんに「一人の情熱から、ですよ」と言われました。でもやはり一人じゃ出来ません。皆さん、チカラをかけて、知恵をかけてください。

(k・k)



## 蝶のくる庭



私が庭の異変に気付いたのは、5月の終わり頃だったでしょうか？  
毎日花がらを摘み、大切に育てていたお陰で、花壇からあふれるように花を咲かせていたパンジーが、一斉に急にしおれたようになってしまったのです。「そろそろ植え替えの時期かな？」と思いながら、根元の方を良く見ると、黒い体の真ん中に赤い線、その両側に赤と黒の突起を持つ、何ともグロテスクな芋虫がムシャムシャと花も葉もお構いなしに食べているのを発見しました。悔しくて、私はこの「害虫」を集めては、パンジーの代わりに草を餌にするようにと、近くの草むらに置きに行っていました。

そんなある日、ふと、もしかしてこの虫は何かの蝶の幼虫かも知れないと思い付き、本棚の「蝶のくる庭」をめくってみると、それはなんとツマグロヒョウモンの幼虫でした。そしてヒョウモン類の食草はスマレと書いてありました。恥ずかしいことに、私はこの時まで、幼虫にはそれぞれ特別な好みの食草があることを全く知りませんでした。

それからのパンジーは食欲旺盛な幼虫に食べられ、どんどん衰れな姿となっていきました。そして、7月初めの午後、庭にヒョウモンの蝶々がひらひらと飛んでいるのを初めて見ました。うちの庭で生まれた蝶が、懐かしい庭に帰って来て遊んでいるように、私には思えました。蝶になっているなら、どこかにさなぎがあるに違いない。パンジーの回りを探してみると、ありました。近くの植木鉢に金色のビーズを5個ずつ2列に並べた飾りをつけたさなぎです。一つ見つけると、近くの塀や植木の葉の下側に何個も見つけることができました。羽化の準備か、もぞもぞしているさなぎもいます。そのビーズ部分を虫眼鏡で良く見ると、観察している自分が反射して映るほど輝いています。どうやって、こんな金属の様な物質を作ることができるのでしょうか？家族にも見せようと、空き屋になったさなぎを家に持ち帰り置い



ていたのですが、数日すると、輝きは消え、ただの黒い斑点となってしまいました。

それから、しばらくして、庭の隅の木陰に植えていたルーというハーブに、ちょっとユーモラスな顔をした少し大きめの青虫がいることに気付きました。また、調べてみるとナミアゲハの幼虫でした。食草はミカン科植物と書いてあります。でも、ルーの葉は観葉植物のアジアンタムの様な繊細な感じで、ミカンの葉とは似ても似つきません。虫も間違えることがあるのかもしれないと思い調べてみたのですが、なんとルーはやはりミカン科植物でした。どうやって、沢山の植物の中から自分の好みの食草を見つけるのか本当に不思議です。

暑い夏でしたが、庭にはハグロヒョウモン、ナミアゲハはもちろん、他にも数種類の蝶が毎日遊びに来ていました。うちの狭い庭でも蝶が育つことができたと思うとうれしくなり、蝶が好むというブッドレアなども植えてみました。

10月頃、NHKの「趣味の園芸」を見ていたら、「パンジーに虫がついて困るがどうしたらいいでしょう？」という質問を紹介していました。ツマグロヒョウモンの幼虫と、成虫となった蝶を瓶に入れてスタジオに持ってきていた園芸家の答えは、「できるだけ幼虫の小さいうちに薬剤で殺しましょう。大きくなると、殺しにくくなります。」というものでした。園芸家という立場上、仕方のない答えでしたが、せめて何人かはあの瓶の中の蝶を見て、パンジーの方をあきらめてくれたらいいなと思いました。

人間の身勝手な、動植物は次第に生息場所を狭められ、絶滅していく種類がどんどん増えています。未来の子供達も色々な生き物を身近にみられるような自然を少しでも多く残しておきたいものです。「蝶のくる庭」はそのための知恵の詰まった素晴らしい本だと改めて思いました。

(K・T)

## 男性も子育てを！

時の経つのははやいもので、この前出産したと思っていたのに、もう1年が過ぎてしまった。初めての子どもの世話を夢中になっていたためか、本当にあつという間だった。

けれども、この1年は、これまでの人生の中で最もいろいろと考えさせられた期間だったかもしれない。出産や育児のあり方について、子どもという生きものについて、親という立場について、毎日が新たな後悔と発見の連続で、肉体的にも精神的にもへとへとになりながらも楽しいという妙な時間だった。

子どもを通して社会を見たのも初めての経験で、これもまた今まで気づかなかったたくさんのことが見えてきた。子どもをもつ前の私は、子どもというのは親や地域の大人の姿を真似て、大人たちの周りであれこれ言われながら育つものだと思っていた。ところが現代では、子どもたちの周りにはいる大人は母親か祖父母、保育施設の職員が主で、父親や地域の大人たちは関わる機会が少ないようだ。家族単位に分断されるか、子どもと大人で分けられるか、どちらかのような気がする。

自分の子どもの育つ環境を考えたとき、もっと多様な人間関係のある場所が望ましいのだが、探すのは難しいようだ。

ところで、私の故郷である群馬県太田市で来年1月1日から面白い取り組みが始められる。男性職員に対し、子どもが生後1年に達する日までの間に連続1週間の育児有給休暇を計6回取るように義務づけるというのだ。男女共同参画が言われて久しいが、現実にはまだ、男性は仕事、育児は女性と考える人が多く、男性が育児休暇を取りたくても職場での理解を得にくかったために導入することにしたという。

市には通常の育児休業制度もあり、男女とも子どもの生後3年間申請できる。ただし、こちらは無給のうえ昇級やボーナスの査定に影響するという。そのため、新たな男女差別だとの指摘もあるが、市は「まずは男性が育児に取り組む環境づくりが必要」と説明している。

このニュースを聞き、女性は気の毒だなど思う一方で、何かが変わるというなど私は感じた。子連れで街を歩いていると、男性の、しかも健常者の視点でつくられたとしか思えないものがたくさん見つかる。授乳室やオムツ交換台にしても、そう感じることもあるのだから、他のことはなおさらだ。子どもに過剰なサービスをすることははないと思うが、最低限必要な配慮はしてほしい。育児経験のある男性が増えれば、このような暮らしにくさが少しずつなくなってゆくのではないだろうか。

とはいえ、私の周りにはいる母親たちの話を聞いていると、平日はもちろん休みの日でも育児に参加しないという父親は多いようだ。子どもができたら妻が子どもにかかりきりになり、夫婦の会話が減ったという話も聞く。もしかしたら、太田市の取り組みも男性に休みを与えるだけということになりかねないかもね。

(T.S)

## 感 感

暖冬が伝えられ、蒼社川の桜はちらほらと花をつけ、近所の庭ではランタナが満開です。12月に入って発生した台風27号はフィリピンに大きな被害を与え、温帯低気圧になった後も関東地方では最大瞬間風速40mを越え、翌日には夏日を記録した所さえあった様です。愛媛も大荒れでした。本当に変なお天気です。

今年は各地で自然災害が相次ぎ、我家も台風23号の際は蒼社川の水位が上り自主避難の様連絡が入り驚かされましたが、裏の道路が冠水した程度で済みました。

中越地震では神戸の時の様な都市とは又違う被害の有様が日々伝えられ、これから迎える豪雪の季節を思うと胸が痛みます。そんな時“多く報道される所にばかり義援金や支援物資が集まり、他の被災地は忘れられる”というコメントを耳にしました。いまだにすべて手書きに頼るアナログ人間の私は例外ですが、今は多くの方がパソコンを使いこなしている時代です。義援金や支援物資は受け付ける時は届け先を特定せず、被害の状況や程度に応じて配分発送できないものなのでしょう。民間の宅配業者には困難でも今はまだ完全民営化していない郵政公社には可能なことだと思うのですが…。

しかし公的機関は案外デジタル化が進んでいない様に感じる機会が多いのは事実です。例えば、戸籍に関する書類の取り寄せは多くの場合、本籍地の役所に直接出向くか、先ず電話で料金を尋ね、郵政公社発行の金券を多めに郵送する様指示され、後日書類と余分の金券が郵送で届き、その金券はほとんどの場合、送ったものより古いものが届く為、大急ぎで期限内に郵便局で現金化しなければならないということは何度も経験しました。又、様々な手続きで役所を訪れた時、総合案内で教えてくれた窓口が違っていることもよくあることです。ようやく目的の窓口にたどりついて、対応してくれる人によって指示が違ってしまうことも少なくありません。間違った指示によって、間違った手続きをとった結果、ペナルティを科せられるのは素人である私達です。

専門家であるべき職員の誤りは“何かの勘違いでしょう”でおしまいです。せめて役所内をオンライン化し、すべての職員が同じレベルの情報を共有できる様になって欲しいものです。

今年の国会は政治家と金銭の問題で終始し年金問題もイラク特措法も十分な審議がなされないまま閉会してしまいました。そんな中 12月14日のイラクへの自衛隊派遣期限の直前に政府は大野防衛庁長官を、与党は各々の幹事長をサマワに数時間派遣し、想定通りとも思える“派遣延長に問題なし”との報告を受けた様です。

アメリカでは第2次ブッシュ体制からは穏健派とされる人達の退陣が次々と伝えられ、強硬派として知られる“ブッシュ家の家庭教師”ライス女史が国務長官に任命される様です。これだけ世界中で異常気象としか思えない状況が続いてもアメリカは今後とも京都議定書に賛同するつもりはないことを宣言しました。

愛媛県下でも合併する市町村がふえ、とうとう、なつかしい重信町の名前も無くなってしまいました。合併に伴い様々な現場のスタッフが統合のもとで減らされていると聞きます。特に福祉関係のスタッフの減少は、計算上では今まで通りのサービスが提供できることにはなっているのでしょうかけれど、自分のことを他人の手を借りなくては生活が成立しない立場の人にとって、顔なじみのスタッフがいなくなるだけでも、心を閉ざしたり、しなくても良い遠慮をしてしまう人がふえるのではないかととても心配です。身近な自治体は小さくきめ細かく、大きな枠をとりはらってITを駆使して効率をはかっていたきたいものです。生活の場である自治体は血の通ったぬくもりと、やさしさで成り立つものであって欲しいと切望します。

愛媛県は財政難を理由に知事公舎等の売却を予定している様です。数億円での価格が想定されている様ですが、数億円は個人にとっては天文学的数字ですが県の財源として考えると、焼石に水どころか拳ほどの効果も無い様に思えます。例えば今流行の短期契約の集合住宅にし災害時には契約更新せず、即、被害者の仮住いとして提供できる様

にしておくなど、何かもっと有効活用を探してみたいと思っ  
てしまいます。

そして何故か愛媛県は日本で初めてのプルサーマル計画を導入する  
県になってしまいそうです。自然は時として人間の予測をはるかに越  
える被害をもたらします。人間が考える安全は決して絶対的な安全  
ではないことを思う時、広島で生まれ育った私には、原発は原爆と同  
じ位怖い存在です。

9月の初めに逃走、迷子で心身共に痛手をおって帰宅した我家の飼  
犬、大五郎はすっかり元気になりましたが、逃走経路を学習・記憶し  
てしまった為、最近朝、庭に出してしばらく遊ばせた後は、夕方家  
の中に入れるまでは繋ぐことになりました。おばあさん猫のリリは二  
階に上る時途中で休憩が必要になってきました。各々に時を重ねてい  
る様です。

北朝鮮との間にはもちろんのこと、中国の間にも懸案を抱えての  
越年です。来年はどんな年になるのでしょうか。今年のように哀しむ人の  
多い年にならない様、祈るばかりです。

来年、リリは17才、大五郎は2才になります。我家は相変わらず、犬、  
猫にふりまわされる日々になりそうです。そして遂に私は2005年版の  
現代用語辞典を購入しました。国語辞典だけでは報道についていけな  
くなった為ですが、この厚さと重さに閉口しています。

どうぞ皆様、佳いお年を!!

(K.O.)



皆さんは準備してありますか？

2004年  
11月2日(火)  
発行

# 災害の備え大丈夫!?

新潟県中越地震では、多くの人たちが避難生活を強いられている。大災害発生直後から支援体制が整うまでは、自力で家族を守らなければならぬ期間が生じる。緊急時に備え、家庭で準備すべきことは何か。

東京・日本橋の三越本 地震の翌日から『どんな店。台所用品など日用品 商品があるのか』など毎売り場に設けられた防災グッズコーナーが、にぎわっている。定価七百五十円の簡易トイレが一時品切れに。

「通常お客さまからの問い合わせのせはほとんどないのに、新潟の

て携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している人の割合は、一九九一年に40・7%だったのが、阪神大震災発生後の九五年は59・1%に急増。だがその後徐々に減少し、二〇〇二年には46・6%に落ち込んだ。「食料や飲料水を準備

「食料や飲料水を準備するに洗濯やトイレ、消火用水として活用できる。」

## 持ち出し品チェックを

### 消防庁HPなど参考に

「通常お客さまからの問い合わせのせはほとんどないのに、新潟の

している」人は、一九九五年の23・5%から二〇〇二年には18・6%に減り、心もとない状況だ。

消防庁のサイト「eーカレッジ」では、災害の基礎知識や備え、いざという時に役立つ情報が学べる。「大地震を3日間生き延びる」のコーナーでは、状況の変化に柔軟に対応する方法をアニメーションやクイズなどで解説。大地震のリアルなイメージを家族で身に付けるには最適だ。

- ◎食料(3日分)
- ◎飲料水
- ◎救急用品
- ◎携帯ラジオ
- ◎懐中電灯(予備電池も)、ろうそく
- ◎マッチまたはライター
- ◎衣類・履物(スリッパなど)
- ◎タオル、ちり紙、ウエットティッシュ
- ◎防寒着、雨具
- ◎手袋または軍手
- ◎現金・通帳
- ◎免許証や健康保険証のコピー
- ◎筆記用具
- ◎薬の処方せんのコピー
- ◎ミルク・おむつ
- ◎生理用品
- ◎使い捨てカイロ
- ◎卓上こんろ・固形燃料
- ◎ホイッスル(救助を求める時に使用)
- ◎家族の写真(はくれた時の確認用)
- ◎10円玉(公衆電話用)

- 両手を自由にできるリュックなどに入れ、目のつきやすい場所に
- 全体の重さの目安は男性が15キロ、女性が10キロ
- 現金や貴重品は盗難に注意

は、大震災後に被災者が

**次回例会のお知らせ**

2005年1月24日(月) 12:00~ 林宅  
総会及び新年会を行ないます。(一品持ち寄り)

**くらしの学習会では、随時会員を募集しています。**

活動会員 2,000円/年    購読会員 1,000円/年  
振込先口座番号(郵便局)    くらしの学習会 01610-5-21026  
問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956  
E-mail: kt-hayashi@nifty.com